

2023年度「自己評価結果報告書」

当園ではこの度、2023年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

カトリック精神に基づき、子供たちに暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に合わせた保育を行いたいと考えています。常に家庭との連絡を密にしながら、日々の保育、行事を通して、神さまの存在や、命の大切さを知らせ、自立心を養うよう保育を行っています。

正しい躰を行い、美しい日本語を耳にすることにより、ご挨拶、感謝、ゆるすことばが身につくよう心がけています。

II. 今年度の重点目標

- 保育計画
- 教員間の協力・連携
- カトリック園として
- 情報の発信・受信
- 防災・防犯への取り組み

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	
1	保育計画	<ul style="list-style-type: none"> 当幼稚園として重点を置くこと、どんな子どもに育つよう保育するか、この園の保育でどんなことが身に付くのか、年度始め、学期始めに教職員間で確認しあう機会を持つ。 コロナ禍以降の新しい生活様式に合わせたより良い保育を行える計画を立てる。感染に関しては教員間、保護者間でも考えが違っているので、よく話し合い、行事など互いに納得できる計画を立てる。 保護者が何を求めているかを理解し、そのニーズと従来の保育を上手に合わせた計画を立てていく。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 園の教育方針、年度を通しての保育計画、行事の開催方法など全職員で共有し、そこから外れることのない保育を実行するよう心がけている。 コロナ流行で変更を余儀なくされた行事や保育形式が多くあったが、変更したことで、かえって良かった点もあった。以前の情勢に戻りつつある中、ひとつ一つの行事や保育を再検討している。今後再流行した際、マスクのルール等どのように戻すか決めておく必要がある。 今年度卒園の保護者へのアンケートにより、お考えを伺うことができ、それを次年度に活かすように検討している。今後は在園の保護者、入園希望者が何を求めているか伺っていききたい。
2	教員間の協力・連携	<ul style="list-style-type: none"> 学年ごとの取り組みが、他の学年の教員にもわかるよう知らせる機会を定期的に持ち、全体の保育にも生かせるようにする。 教職員全体で一つのチームであることを意識し、学年単位でなく、お互いの学年を助け合う雰囲気づくりに努める。 子どもへの注意の仕方、配慮の必要な子どもに対する接し方等、よく話し合い共通理解を持つ。 より良い保育を目指し、教員一人ひとりが自ら考え、活発に意見を交換することで保育の質を高める。 	<p>B+</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の保育後に行われる職員会議で、各学年の取り組みや配慮が必要な出来事を共有することができ、それを異年齢の交流等に生かすことができている。情報の共有は必要だがそのために時間を取られ、保育準備に支障をきたすこともあるので対策を考えたい。 他学年の仕事の進み具合を見て、互いに協力することができている。保育準備の進捗状況についての考えは個々の職員で個人差があり、改善の必要がある。 今年度は年次の若い職員からも、より良い保育を目指した提案や意見を聞くことができ、それを保育に活かすことができた。
3	情報の発信・受信	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会においてクラスの子どもの様子、園としての考え、保育のポイントなどを正確に伝え、保育について、家庭の在り方について共通理解を得るよう努める。 定期的に保育参観を行い、日常の保育の様子を知らせる。場合によっては個別に保育や子供の様子を見てもらい、保護者と個別懇談が行えるようにしておく。 様々なツールを用いて、園外の方にも幼稚園のことを知ってもらえるよう努める。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者会において、保育の内容やクラスの様子、子どもたちの取り組みを伝えるとともに、子どもの教育に対しての園としての考えを伝えるようにしている。 年少組では保育参観や個別の懇談の機会を増やしたことにより、子どもと家庭での様子も伺え、次年度へ活かすことができるように思う。他学年は時間を取ることが難しいが、よい方法を考えていきたい。 今年度はホームページの定期的な更新に加え、インスタグラムによる情報発信も始めた。今後もより多くの方々に園を知っていただくよう工夫をしていきたい。

2023年度「自己評価結果報告書」

評価項目		取組み内容	
4	防災・防犯への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年感染防止対策に重きを置く傾向となったが、来年度は防災・防犯の訓練の回数を増やし、様々な場面に適応できるようにする。 様々な条件を設定して、防災・防犯訓練を行い、子どもたちともよく話し合う。 訓練の結果を職員間で話し合い、次の訓練に活かしていく。 訓練の結果をマニュアルの改善にも活かしていく。 	<p>B+</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に比べより多くの防災・防犯訓練を行うことができた。子どもたちに繰り返し話し、訓練することにより防犯防災に対する意識も高くなったように思う。 訓練を行う上でのパターンが同じようなものになってしまっているので、様々な条件での訓練を実施していきたい。 昨今起こった地震、災害をもとに園として考えていくべきことを検証し、訓練にも活かしていくつもりである。
5	カトリック園として	<ul style="list-style-type: none"> カトリック幼稚園の教員であることを自覚しそれぞれがキリストの教えを学びそれを幼児にどのように伝えるか指導法を全体で研究する。 カトリック教会との連携を図り、キリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にする。 身近な事象（自然事象・社会的事象）や動植物とのふれあいに親しむとともに生命の大切さや畏敬の念を感じ取れるよう努める。 カトリックの教えが、単に知識や文化の伝道にならず、精神の部分も大切にしていく。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は姉妹園の職員と共に、教会に赴いて神父様の講話を伺う機会ができ、カトリック園の教員であることを自覚し、子どもたちに伝えて行こうとする気持ちが芽生えた。 子どもたちには日々の祈りや聖歌、園長からの神様のお話、お弁当の時間にBGMとして聴いているカトリックソングなどから、自然と宗教心が身についていると思う。 世界で起きている紛争、戦争などに子どもなりに関心が持てるようにし、与えられた命の大切さ、互いに思いやりの心を持つことの大切さを伝えることができた。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	保育計画	<ul style="list-style-type: none"> 当幼稚園として重点を置くこと、どんな子どもに育つよう保育するか、この園の保育でどんなことが身に付くのか、年度始め、学期始めに教職員間で確認しあう機会を持つ。 保護者が何を求めているかを理解し、そのニーズと従来の保育を上手に合わせた計画を立てていく。
2	遊びを基にした教育	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びの中で、ルールを守り楽しく活動し、友達と喜びを共有したり、頑張ったり、時には我慢したりしながら豊かな心の体験が得られるようにする。 数量、文字、図形などに関して園生活の中で無理なく興味や関心が持てるよう取り上げていく。 表現活動を通して、工夫したり、考えたり、幼児なりの創造性を発揮できるようにする。 絵本や物語を使って、想像力や言葉に対する興味を育てる。
3	安全・健康への取組み	<ul style="list-style-type: none"> 様々な条件を設定して防災・防犯訓練を行い、子どもたちともよく話し合う。訓練の結果を職員間で共有し、次の訓練に活かしていく。 コロナ流行で培った衛生管理を今後活かしていく。 一人の幼児をじっくり見ながら周囲にも気を配り事故が起きないように、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行う。子どもと一緒に見たり考えたりして、安全な遊び方に気付くようにする。
4	新しい取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度から、宅配弁当や延長保育、希望者への英語、が始まり、ドライブスルー（登園時に車中から降りずに子どもを預ける）が再開した。取り組みを始めたことにより、良かった点、日常の保育準備への影響など今一度検証しなおし、よりよい園を目指す。
5	カトリック園として	<ul style="list-style-type: none"> 園長だけでなく、各学年の教員からも子どもたちへカトリックの教えが伝えられるようにする。 カトリック幼稚園の教員であることを自覚し、それぞれがキリストの教えを学びそれを幼児にどのように伝えるか、指導法を全体で研究する。 カトリック教会との連携を図り、キリスト教文化や伝統に触れる機会を大切にする。

V. 学校関係者の評価

いつも笑顔で一人ひとりの園児を迎えてくださる先生方。園全体が暖かく安心できる雰囲気にも包まれていると感じています。園生活の中でも、お祈りやご挨拶を大切に、先生方が常に美しい言葉遣いで接して下さるので、年少から年長まで、全学年の園児に美しい日本語が浸透していることを実感しています。

学年を超えた縦割りの保育活動も多く、園庭遊びやお弁当の時間、さまざまな行事などを通して、子どもたちは年齢の異なるお友だちへの接し方も学ぶことができます。

コロナ禍を経て、登園時のドライブスルーも先生方のご協力を得ながら再開することができました。また新しい取り組みとして、宅配お弁当や延長保育、英語レッスンの導入など、時代に合わせたニーズも考えながら、先生方が園児と保護者に寄り添い、よりよい園生活のために工夫してくださっていることに心から感謝しています。

園のHPやInstagramを通じて、今年度はますます保護者が日々の子どもたちの様子を知ることができる機会を作ってくださいました。先生方の熱心なご指導のもと、子どもたちは楽しく制作活動や、季節、そしてカトリックのいろいろな行事に取り組んでいます。自然と親しみ、自分と周囲を慈しむ心を養いながら、子どもたちが一日一日と大きな成長を重ねていることに、保護者として深い喜びを感じています。

学校評価委員 松村有紀子

学校評価委員 田中優美子

学校評価委員 三上由美子

学校評価委員 上坂歩美